

と い ち じょう あと
豊 地 城 跡 亦

現地説明会資料

豊地城跡は東条川の北岸(標高68m前後)の平坦な段丘上を選んで築城されました。この城は別名「東条城」・「播州依藤館」ともよばれ、城内には県内でも屈指の規模を誇る大規模な“土塁(どるい)”遺構が残されています。歴史的にも依藤氏や別所重棟など播磨の有力武将が城主となった重要な城郭といわれています。

今回、兵庫県立考古博物館では平成21年11月～平成22年3月までの予定で(主)神戸加東線交通安全地区一括統合補助事業に伴う発掘調査を実施してきました。



兵庫県立考古博物館 平成22年2月27日(土)

加古郡播磨町大中1丁目1-1
Tel079-437-5589 Fax079-437-5599
<http://www.hyogo-koukohaku.jp/>



豊地城跡全体図

(小野市中谷町)



調査区全景(西から)



土師器(堀6)



うるし椀(堀6)



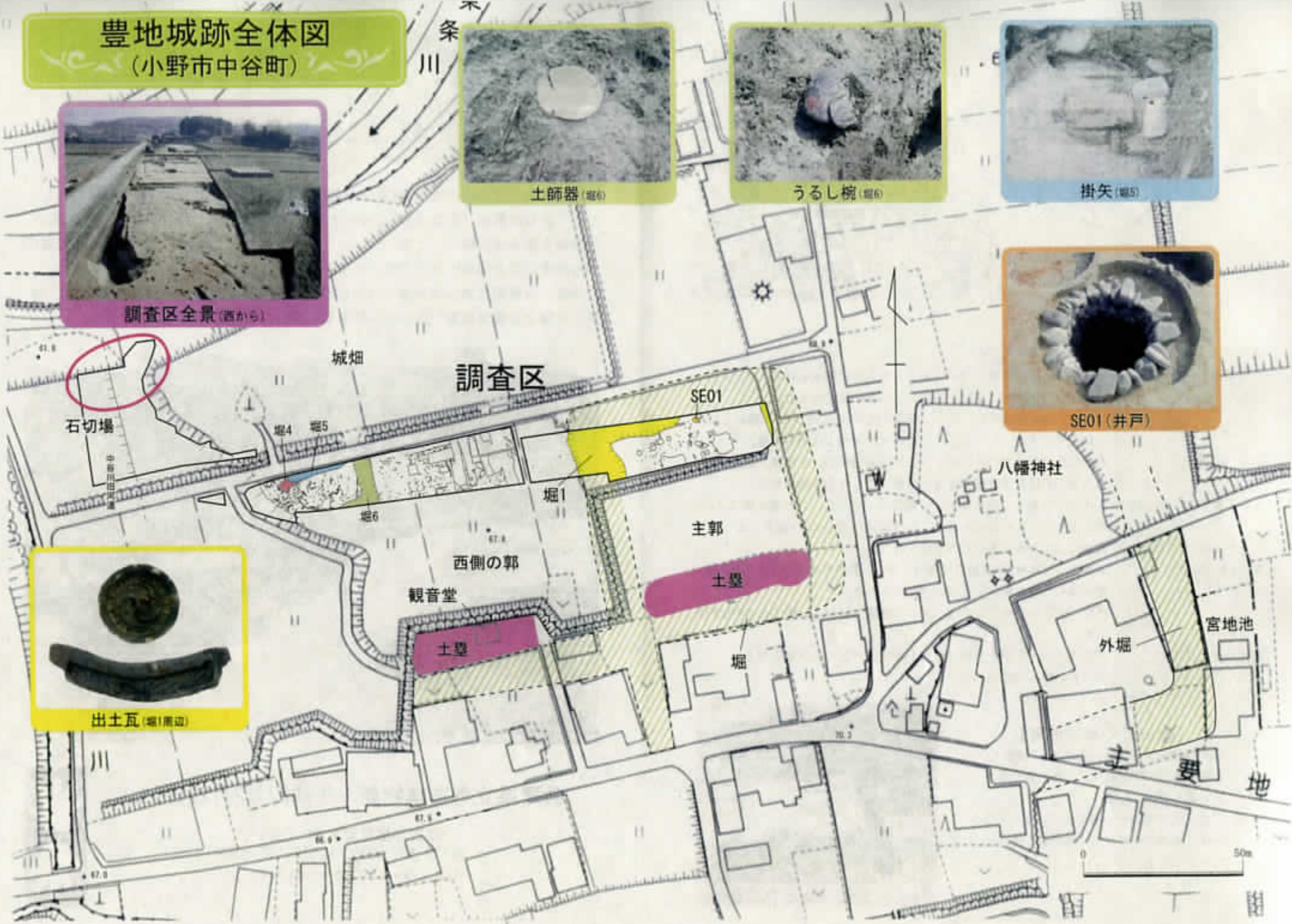
掛矢(堀5)



SE01(井戸)



出土瓦(堀1周辺)



【屋口城跡】



【豊地城略年表】

| | |
|---------------------|--|
| 鎌倉時代 | 大規模な集落が営まれる。 |
| 文明年間 (1469~1487) | 依藤氏は赤松家再興に功績があり、東条谷に領地を得る。 |
| 文明16年 (1484) | 浦上則宗が東条城に重臣を招集して、赤松政則を追放。 このとき依藤氏は政則に従い、摂津神呪寺(かんのうじ)に逃れるなど行動を共にする。しかし、のちに豊地城を浦上氏から回復。 |
| 享祿3年 (1530) | 別所村治が柳本賢治の援助を受け依藤城(豊地城)を攻撃、依藤氏は浦上氏の救援を受け柳本賢治を暗殺してこれを敗退させる。 |
| 永祿年間 (1558~1570) 初め | 別所氏との紛争が続き徐々に依藤氏は圧迫され、この頃に滅ぼされる。落城後は別所氏の支城となり、別所重棟(しげむね)が城主となった。 |
| 天正6~8年 (1578~1580) | 重棟は三木合戦で秀吉方の武将となる。 |
| 天正8年 (1580) | 羽柴秀吉は播磨8城に城郭破却令を発し、重棟が秀吉方であったものの豊地城もこの対象として破却(廃城)された。 なお、破却を実施したのは、後の小野藩主となる一柳(ひとつやなぎ)氏である。 |
| 天正13年 (1585) | 秀吉方であった別所重棟は但馬八木城に移封され大名となる。 |
| 幕末~明治 | 池田石の採石が行われる。 |

【池田石の石切場跡】

江戸時代末から明治にかけて、“池田石”と呼ばれる石材を切り出した石切り場がありました。

池田石は家の土台石や狛犬として加工され、東条谷や加古川流域で広く使われたといえます。



石材を切り出した痕跡